



聖人出家の段

「親鸞聖人伝絵」(重文)
聖人が出家された一八一年から数えて、今年は八三〇年目にあたります。

高田 本山 だより

発行所

真宗高田派宗務院

三重県津市一身田町2819

電話 059-232-4171

FAX 059-232-1414

HP www.senjuji.or.jp



発行部数 35,000部



開山聖人七百五十回遠忌報恩大法会 お待ち受け法会について

開山聖人七百五十回遠忌報恩大法会事務局局長

岩田 光正

高田本山専修寺は平成二十四年四月六日から十六日までの間「開山聖人七百五十回遠忌報恩大法会」をお迎えします。すでに各別院、一般寺院ではお待ち受け御遠忌法会が厳修されており、本山においても五十年に一度の法会に向け平成二十三年三月三十一日(木)にお待ち受け法会を執り行います。

さて、現代社会を顧みるとき、近代文化の発展は私たちに多くの利益をもたらしてきました。しかし一方では、物質万能、自己中心

の考え方が強まり、人々の生活の中で畏敬の念が薄れ、人間疎外、環境破壊などの問題が進み、また自殺や衝動的な暴力、殺人事件が頻発し、年少者の凶悪犯罪が増加するなど、社会不安が募るばかりです。このような今こそ世の人々は弥陀の念仏に出遇って真実の自己に目覚めていく生活が実践されていかなければなりません。だからこそ御遠忌を行事だからつとめるのではなく「聖人のみもとに帰ろう」をテーマに「専修念仏」の声を広めなければなりません。

これがためお同行と一体となった法会を考えるに当たって、各一般寺院住職はもちろん総代さんや役員さんにも御遠忌法会推進委員になってもらう事が、一般寺院住職の御遠忌に対する姿勢をより活発化し、お同行も自身自身の報恩の法会だと思いを深めて頂き、別院、各一般寺院での御遠忌法要「お待ち受け法会」の「胎動」が始まり、大きな「うねり」となって本山に足音が近づいてくる様に、そして教団をあげての盛り上がりを見せ今後の念仏相続への取り組みに繋がればと願うものであります。

武田龍精編
往生論註出典の研究

論大綱／総説偈文／觀察門
／廻向門／解義総説／觀起觀
／生信／觀察體相／淨入願心
／善巧攝化／離苦提障／順心
／菩提門／名義撰對／願事成就
／利行滿足／總結の論集
参考文献略記一覽外
定価9000円税込

林 智康著

親鸞聖人と建学の精神

知恩報徳と常行大悲／前に生れんものは後を導き、後に生れんひとは前を訪へ／世のなか安穩なれ、仏法ひろまれ外
定価1300円税込

北畠晃融著

仏道を学ぶ

定価1680円税込

普賢保之著

本当の幸せとは

—自己を見つめて—
定価1000円税込

無名会同人編

仏と人47

定価410円税込

松岡秀隆著

蓮如上人の門弟の人々

定価2500円税込

山崎龍明著

歎異抄とともに

定価1050円税込

600-8342 京都市下京区花屋町西洞院西入

永田文昌堂

電話 0755-33711・366511
FAX 0755-33711・366511
振替 0102050493361

親鸞聖人の御遺骨

来年の聖人七百五十回御遠忌まであと一年。高田本山では三月三十一日にお待ち受け法会が勤修されます。現在、七百五十回御遠忌の企画として、七百回忌（昭和三十七年）と六百五十回忌（明治四十五年）の記録写真や記念品などを蒐集して、



明治と昭和の御遠忌を回顧する展示が計画されています。この親鸞聖人の御遺骨箱も、昭和三十五年七月に、名古屋の丸栄百貨店にて開催された七百回忌記念の「親鸞聖人展」に出品されたことがあります。

聖人の御遺骨は栃木の本寺の墓所と一身田の御廟に埋納してあって、直接に礼拝することは出来ませんが、この黒漆塗りの箱には親鸞聖人の御歯骨が納められていますので礼拝することが



連合主催・朝日新聞社後援にて、親鸞聖人七百五十回忌・真宗教団連合四十周年記念『親鸞展 生涯とゆかりの名宝』が開催されます。

可能です。大正十五年（一九二六年）の立教開宗七百年記念のモノクロ版の写真帳には、この容器を開けたところが掲載されていて、宝珠型の玻璃容器には、御歯骨が一つだけ収められています。また、その隣には顕智上人が日頃所持しておられた聖人御遺骨の容器も並べて写されています。顕智上人所持の御遺骨は古裂の袋に納められ、「親鸞聖人ノ御骨 顕智ノ御マホリ」と上人自筆の書き入れのある包紙に大事に収められ、さらに丈夫な和紙で作られた箱に保管されています。



なお、三月十七日から五月二十九日まで、真宗十派

高田派関係の寺院からは、専修寺所蔵の国宝『三帖和讃』をはじめ、宝物館収蔵の「親鸞聖人坐像」や御影堂旧本尊の「阿弥陀仏立像」（現、御対面所仏間本尊）、国宝『三帖和讃』など聖人真筆の聖教や名号本尊、一身田・厚源寺伝来の「南無仏太子像」（三重県指定文化財）、岡崎・満性寺所蔵の「南無仏太子像」「聖徳太子略伝」「善光寺如来絵伝」（愛知県指定文化財）、一身田・光寿寺伝来の「一光三尊仏」（模刻像）、そして、鈴鹿市・三日月市の太子寺からは中世肖像彫刻の優品として知られている「善然房坐像」（重要文化財）が久々に出品されます。詳しくは、下記の高田派関係全出陳宝物一覧を御参照下さい。是非とも京都左京区岡崎（平安神宮前、大鳥居の東側）の京都市立美術館までお出かけいただきますようお願い申し上げます。

- 太子寺所蔵（三重県・鈴鹿市三日月）二点
 - 善然房坐像（重要文化財）二軀。
- 満性寺（愛知県・岡崎市菅生）四点
 - 太子・高僧連坐像二幅。
 - 聖徳太子立像（南無仏像、愛知県指定文化財）二軀。
 - 聖徳太子略伝（愛知県指定文化財）二幅。
 - 善光寺如来絵伝 四幅
- 織部家所蔵（三重県・津市・身田）一点
 - 一光三尊仏立像（光寿寺伝来）二軀。
- 厚源寺（三重県・津市・身田）二点
 - 聖徳太子立像（南無仏像、三重県指定文化財）二軀
- 専修寺所蔵（三重県・津市）二点
 - 阿弥陀如来立像（運慶弟子慶俊作、鎌倉時代、三重県指定文化財）一軀。
 - 親鸞聖人筆 十字名号（鎌倉中期）二幅。
 - 親鸞聖人筆 八字名号（鎌倉中期）二幅。
 - 黄地十字名号（親鸞筆賛銘、鎌倉中期）二幅。
 - 紺地十字名号（親鸞筆賛銘、鎌倉中期）二幅。
 - 親鸞聖人・真上人筆 三帖和讃 三冊（鎌倉中期、国宝）。
 - 親鸞聖人筆 唯信鈔 一冊（鎌倉中期、重要文化財）。
 - 親鸞聖人筆 尊号真像銘文（鎌倉中期、重要文化財）二冊。
 - 親鸞聖人筆 見聞集（鎌倉中期、重要文化財）二冊。
 - 親鸞聖人筆 浄肉文（鎌倉中期、重要文化財）二幅。
 - 親鸞聖人筆 曇摩伽菩薩 云々 鎌倉中期、重要文化財二幅。
 - 真上人筆 皇太子聖徳奉讃（鎌倉中期、重要文化財）二冊。
 - 真上人筆 親鸞夢記（鎌倉中期、重要文化財）一冊。
 - 顕智上人筆 慈信房善鸞義絶状（鎌倉後期、重要文化財）二卷。
 - 顕智上人筆 獲得名号自然法爾御書（鎌倉後期、重要文化財）一冊。
 - 日野氏系図（鎌倉時代、重要文化財）一冊。
 - 親鸞聖人坐像（南北朝時代、三重県指定文化財）一軀。顕智上人筆 親鸞聖人影像（室町時代）二幅。
 - 慈円筆 慈円書状（鎌倉時代、重要文化財）二幅。

（宝物館主幹 新光晴）

リレー法話

「報恩講に思うこと」

真昌 智海

親鸞聖人は二十年の間、比叡山で修行されました。

聖人の思いは、人間が人間らしく生きて、本当に喜びのある人生とは何かを、常に心に思っておられました。

自分自身を省みますと、人間に生まれながら本当の喜びを知らない人生、不満の人生、思いどおりにはないでしようか。人間に生まれて、どうしたら本当の喜びのある人生が送れるようになるのか、その事が聖人の一途な思いでございました。

聖人は修行中の比叡山のお山の上で「ここに定水（じょうすい）を凝らすといえども識浪（しきろう）しきりに動き」琵琶湖の水面は静まりかえっているけれども、私の心はざわついて仕方がありません。「心月（しんげつ）を観（かん）ず」といえども妄雲（もううん）なお覆（おお）う」比叡の山から眺める月は輝

いているけれども、私の心には雲がかかっておりま。これは聖人の嘆きのお言葉であります。そして、悩み苦しんだ比叡山での修行の日々から、ご縁があつて法然上人（ほうねんしょうにん）の草庵を訪ねられます。

聖人は、法然上人に「私は自我を破ろうとして、一生懸命修行したけれども、思うようにいきません」と自分の心のうちを問うてみました。そうしたら「自力ではあかんぞ」と法然上人はおっしゃられました。「自分の力で自我を断ち切るなど、とてもそんなことはできません。自我のあるのが自分の人生です。とても自我と私は切り離せません。他力念仏でないと目覚めないのですよ」と、法然上人に教えられるわけです。

自分が、自分というのが自我の世界ですが、他力念仏の教えからいいますと人間はさまざまご縁をいただいて、みんながお互い助け合つて生かされているのです。皆さんのおかげですべてのものが自分を

生かそうとはたらきかけておつて下さつておる。そういう不可思議（ふかしぎ）不可称（ふかしやう）な力によつて生かされておるんだと気づかせていただくのが自我の世界が破れるということ

ある時テレビを見ておりますと、会社の社長さんとアナウンサーとの対談がありました。アナウンサーが「何をもつて、人間が完成した、成功したと言えるのですか」と質問したところ、社長さん曰く「地位、名誉、財産で人間が完成したとは言えません。それは人間性を回復することです。」「人間性の回復とは何ですか。」「心の底から、ありがとうございます、もったいないことでございます、おかげさまで」という言葉が出てくるのとが人間性の回復なんですね」と答えられました。

自分が自分の力で生きていると思うのは自我の世界です。社員一人一人の努力のおかげによつて、今自分が生かされておる、人さまの力によつて生かされてい

るということに気づかされた社長さんは自我が破れた人ではないでしようか。心の底からありがとうございます、もったいないことでございます、お陰様と言える、これが他力念仏の世界ではないでしようか。

さて法然上人との出会いによつて、親鸞聖人は自分の自我に気づかれた。そして聖人は自力の世界から他力の世界にお入りになられたのです。聖人が求められた、本当の教えとはなんでしょう。『正信偈（しょうしんげ）』に「如来（にょらい）所以興出世（ゆゑにこうしゅつせ）、唯説弥陀本願海（ただいふだんぼんがんかい）」とございます。なぜ阿弥陀さまがこの世の中にお出ましになられたか。それは阿弥陀さまのご本願を私たちに説かんがためですよ。ご本願のお念仏をいただく、これが真実のみ教えです。阿弥陀さまの願いに目覚めることです。浄土真宗は目覚めのみ教えです。

阿弥陀さまのご本願から何を教えていただくのでしょうか。それは自分の本当の姿に気付かせていただくこ

とです。自分の人生に目を覚ませ、目を覚ませと常に私たちに呼びかけて下さるのが阿弥陀さまのご本願です。ほとけの願いに目覚めてくれと常におっしゃって下さっています。私の本当の姿、心の中の本当の姿を眼の前に見せて下さるのです。

本当の姿とは、業（ごう）につつまれた私の姿です。人間の業とは、自分の身から出る行い、口で言う行い、心の思う行い、これらを身口意の三業と言います。自我があるばかりに、自分が偉いと世間に振りまいている業です。実は真つ暗闇（くらやみ）の無明（むみょう）の中で業につつまれた生活を送っているのが人間の姿なのです。人間業に苦悩する私たちを救わんが為に阿弥陀さまのご本願がお念仏となつて私たちの前に現れて下さったのです。ただお念仏ひとすじが私たちの救われていく道ですと教えられることでございます。

（鈴鹿市 真念寺住職）

本文は報恩講期間中である平成23年1月12日に大講堂であつたお説教を要約したものです。

お江と専修寺

今年のNHK大河ドラマ「江」

「姫たちの戦国」の主人公は、浅井三姉妹の三女「お江」という。そのお江が幼少時代、津で過ごしたというのだ。本山とお江との関わりについて述べる前に、少しお江について学習してみたい。

ご存じのように、織田信長の妹・お市が、近江の戦国大名・浅井長政に嫁いで生まれた三姉妹の末っ子がお江である。上の姉が茶々（豊臣秀吉の側室・淀君）、二番目の姉が大阪の守護大名・京極高次の正室となるお初である。お江が生まれた天正元年（1573年）に、父・長政が、伯父・信長に殺されるといふ悲劇に遭う。翌年、母親、二人の姉と共に、信長の弟である伯父の織田信包（のぶかね）の所に引き取られた。そこが津市河芸の伊勢上野城である。その後、天正8年安濃津城（現在の津城）の完成と共に移り、

天正10年母・お市が柴田勝家に嫁ぎ、越前・北ノ庄城へ入るまでの約9年間をこの津の町で過ごしたといわれているのである。

天正12年、従兄弟（母・お市の姉・お犬の子）であり、伯父・信包の家臣であった、佐治一成の許に嫁ぐが、秀吉の命により離縁させられ、秀吉の甥・羽柴秀勝と再婚する。その後、徳川家康の次男で、二代将軍と成る秀忠の御台所に収まり、三代将軍・家光を生むのである。まさに波瀾万丈の人生を送った女傑といえよう。

さて、本山である。お江が津に滞在した天正2年（10年という時期は、本山にとっても激動の時代であった。時の法主は第12世堯慧上人である。福井熊坂の真智上人との関係が拗れ、教団の存続、正統性が揺らぎかねない大きな節目を迎えていたのである。

幸い本山は、時の権力者・信長と、長島の一方向一揆などの良好な関係があり、後の秀吉、家康からも朱印

状を頂き続ける事となる。

それは、熊坂専修寺との問題を乗り越える一助となつたであろうと筆者は推測する。また、お江が津城に移つた天正8年には、御影堂が焼失する。

しかし、このような事象があつた時だからこそ、一身田という町は、専修寺の再興に木槌の音が鳴り響き、お念仏が高らかと称えられ、活気に満ち溢れた所だつたろうとの思いを致すのである。

伊勢湾の穏やかな潮風と、心安らぐお念仏の声に包まれて、幼少期を送つたであろうお江。優しくも厳しい母お市と、優雅で凜とした姉茶々、おしゃまで明るい次姉お初と共に過ごした津での9年間は、時代に翻弄され苦難の道のりを歩んでいったお江が、どんな時も自分を見失わず、「ただあるがままの人生」と、何事をも受け入れ、力強く乗り越え生き抜いて行く、そんな心を養つた大切な時期でもあつたのだろう。（進納所・高藤）



天守台跡に建てられた展望台

三重県津市河芸町 伊勢上野城跡

世の中安穏なれ 仏法ひろまれ

社寺建造物彩色、障壁画、仏画、絵伝、頂相画、天井画などの制作と修復・復元承ります。その他石工、木地、漆、箔押、鋳金具など、ご相談下さい。

ものづくりの観点から、あらゆる職種の本物の職人による法物制作のお手伝いをします。

絵所

〒514-0114 三重県津市一身田町2819
TEL:059-232-4171 FAX:059-232-1414
(本山宗務院内 絵所)

絵所頭

安川如風

御本山絵所
ごほんざんえどころ
にやふう

高田本山御用達

井筒法衣店

社長 幾田潤

京都市下京区堀川通新花屋町角（西本願寺前）
（〒600-8503）

TELフリーダイヤル 0120-075-720
FAXフリーダイヤル 0120-075-490

本山諸行事

御影堂にて。
詳細は7面参照。

どうぞ、ご参詣下さい。
朝のおつとめ

毎朝、午前七時より。
始めに如来堂、次に御影堂
にて勤行。

引き続き、御影堂にてお説
教がございます。どうぞご
聴聞下さい。

毎月、十五日には御参廟（親
鸞聖人のお墓へのお参り）
がございます。

現在、御廟が工事中ですので、
御影堂でのお説教の後、如
来堂からの遙拝になります。

三月の行事

◆讃佛会

春のお彼岸の法会です。

三月十八日から二十四日。

御影堂にて。

午前十一時三十分より勤行。

引き続きお説教がございます。

二十一日は法嗣殿の御親教

と鑑学のご講師による復演

がございます。

◆お待ち受け法会

本山では平成二十四年四月
に開山聖人七百五十回遠忌
報恩大法会をお迎えします。

残すところ一年に迫った御

遠忌にむけて皆様とご一緒

に盛りあげていきましよう。

三月三十一日。

四月の行事

◆写生大会

四月二日。

本山の風景を描いてみませ
んか。

画用紙と画板は本山でご用
意いたします。

対象、幼児から中学生まで。

受付、宗務院。

午前十時から午後三時。

◆十万人講法会

四月六日から十日。

本山の護持団体の十万人講

財団が主催する法会です。

御影堂にて。

午前十一時三十分より勤行。

引き続きお説教がございます。

◆釈迦三尊仏法会

四月八日。

山門の二階部分にご安置し

てある釈迦三尊仏（お釈迦

さま、普賢菩薩、文殊菩薩）

の前でおつとめをいたします。

午前十時三十分より。

◆戦没者追弔法会

四月十一日。

如来堂西側位牌堂にて。

午前十一時より。

つづいて御影堂で勤行、お

説教がございます。

◆千部法会

「千部読む 花の盛りの

一身田」（珍碩）

四月十二日から十七日。

御影堂にて。

午前十一時三十分より勤行。

引き続きお説教がございます。

◆はなまつり

四月十七日。

こどもたちでお釈迦さまの

ご生誕をお祝いします。

午前九時三十分より宗務院

にて受付。

宗務院二階会議室で式典を

行います。

つづいて、お釈迦さまを乗

せた白い大きなゾウさんを

皆で引っ張って一身田の町

を練り歩きます。

再び会議室に集まって、高

田高校仏青インターアクト

部のお兄さんお姉さんたち

による楽しいゲームの時間

があります。

おわりに四月二日にあった

写生大会の表彰が行われます。

◆興学布教研究大会

四月二十九日。

真宗のみ教えについて、日

ごろの研鑽の成果を発表し

ます。

午前十時より宗務院二階会

議室。

聴講歓迎、無料。

五月の行事

◆前住上人御正當

五月六日から八日。

第二十三世堯祺上人を偲ぶ

法会です。

御影堂にて。

午前十一時三十分より勤行。

引き続きお説教がございます。

◆親鸞聖人降誕会

五月二十一日。

親鸞聖人のご生誕をお祝い

する法会です。

御影堂にて。

午前十一時三十分より勤行。

引き続きお説教がございます。

慶讃の行事が多数催されます。

御本山御用達

鍵長法衣仏具店

京都市下京区油小路正面東入（中央局区内）
電話 (075)371-0854・8181～2番
FAX (075)344-2701番
振替口座・01070-3-972番 郵便番号600-8344

ご法事のご会食 ご予約承り中

～少人数から団体のお客様まで是非ご利用ください～



お膳の品目(精進+和食ミックス)

本山会席

各種献立よりお選びいただけます。

◇精進料理 1人前 4,000円(税別)

お問い合わせ 注文は



人気商品 萬田本山流 精進料理

◇本山会席 1人前 3,500円(税別)

※ご自宅までマイカー/バスでご運送(5名より14名様まで)

〒高田青少年会館 TEL.059-232-6079



高田本山御用達
三重県仏教会御推薦

石碑
記念碑
燈籠



高級御影石専門店

御影石材(株)

(石に御用の方は)

イシニゴコロ

☎0120-142540

本店 津市広明町(影見寺門前)

☎059-224-1700(代)

五条西洞院の御房にて。
『親鸞聖人伝絵』（重文）



親鸞聖人のご生涯シリーズ⑬

帰洛後の生活

親鸞聖人は六十三歳のころ、京都に戻されましたが、その正確な年や理由については語ってられません。「伝絵」には京都市中を転々として五条西洞院あたりに落ち着かれたよう記されてあります。この地は、現在に到るまで、商家が軒を並べる下町の風情であります、聖人にとっては、こうした人間臭い所が念仏生活に良い地と思われたのでありましょう。

関東に於いては、聖人のご教化によって、十万人もの念仏者が育ったと言われますが、いつしか聖人その人が、救済の主として見られるようになったこと、大いなる懸念を抱かれたようであります。

真宗の教義を確立させなければならぬ。このお気持ち、聖人をして、文筆活動へとかきたたせて行ったのであります。このためには書物も多い京都へという事になったのでありましょう。

聖人は全く自己というも

のを没却して、それを読むものをして、仏の救い預け開発に役立たせようと努力されました。文字にうとい人達にも少しでもわからせようと、先達方の良い著作を筆写して、関東の信者に送ったり、又文意と呼ばれる解説書を作ったり、遠隔の地にある人々の問いに答えるお手紙を沢山書いたりされたのであります。

尚、こうした京都での生活を支えていたのは、主に関東の念仏者でありました。『御書』三ノ四に、「かたがたよりの御志のものどもかずのまゝにたしかに給わり候」とあるように、御消息の中にも銭二百文とか、五貫文とかを受け取られた謝意が示されていて、遠地の念仏者に対する聖人のお心遣いが垣間見られます。

このように、お念仏を通してのあつち人間関係が確立されていたのであります。

(教学院 第三部会)

京仏壇京仏具・ご本堂内装
お仏具ご修復・お納骨壇



高田本山御用達

京仏具

小堀

本店／京都市下京区烏丸通正面上る ☎(075)341-4121(代)
東京店・練馬店・福岡店・札幌店・小堀京仏具工房

無料進呈！ お役に立てて下さい

◆成功談と失敗談に学ぶ 新築・改築のノウハウ「100のヒント」
お申し込みはこちらから フリーダイヤル(本店) 0120-27-9595

お墓

寺標

墓地移転

霊園開発造成

高田本山御用達
全国優良石材店、認定店

創業110余年

株式
會社

ISHIEN
STONES 石仙

(旧(有)山本石材店)

四日市市近鉄阿倉川駅前

☎059-331-4114
サイコーヨイイン



開山聖人750回遠忌 お待ち受け法会 平成23年3月31日(木)

高田本山専修寺では、平成24年4月に「開山聖人750回遠忌報恩大法会」を迎えます。

この50年に1度の特別な法会に向け平成23年3月31日（木）お待ち受け法会を執り行います。当日は、各寺院の責任役員の方にお参りをいただき代表の方に決起宣言を行っていただきます。「如来大悲の恩徳は 身を粉にしても報ずべし 師主知識の恩徳も 骨を砕けても謝すべし」と和讃にうたわれた開山聖人のお心を拝しお同行と一体となった遠忌大法会を計画しています。既に始まっている別院や各寺院での「お待ち受け法会」に続いての本山での「お待ち受け法会」です。

ぜひ、お同行お誘い合わせのうえお参りいただきますようご案内申し上げます。

お待ち受け法会スケジュール

10:00	法会
10:30	特別説教 誓元寺 鑑学 栗原 廣海 師
11:10	記念式典（責任役員大会）
11:50	イベント（ヒナタカコ ミニコンサート）
12:20	終了予定



ホーオーが目印！

六代目 (株)ぬし与仏壇店

桑名本店・四日市店・蟹江店・桑名メモリアルパーク

緑 と 共 に 75 年

三重県知事免許認可
(一級造園技能士) 造園・庭園管理

山本造園

代表 山本 進一郎

津市栗真小川町 869-77

TEL 232-7453

FAX 232-7453

檀信徒研修会

テーマ
「親鸞聖人のご生涯」

●平成23年5月19日(木)9時より受付

●会場 本山及び青少年会館

栃木県本寺専修寺遠忌報恩大法会延期のお知らせ

平成23年4月2日(土)～4日(月)に執行を予定いたしておりましたが都合により延期させていただきます。

執行日が決まりましたら、改めてご連絡いたします。



ほん じ せん じゅう じ
本寺専修寺 御影堂 (重文)

〒321-4511 栃木県真岡市高田1482番地
電話 0285-75-0103

法会とお説教の時間

4月2日(土)

〔速夜〕 午後1時から

法主殿御親修

法主殿御親教と復演

〔初夜〕 午後4時から

法主殿御親修

お説教

4月3日(日)

〔晨朝〕 午前8時から

勤行

〔稚児練り〕

午前9時30分から

〔日中兼速夜〕

正午から

法主殿御親修

法主殿御親教と復演

帰敬式

〔初夜〕 午後4時から

法主殿御親修

お説教

4月4日(月)

〔晨朝〕 午前8時から

勤行

〔御参廟〕 午前10時から

〔日中〕 正午から

法主殿御親修

法主殿御親教と復演

帰敬式

◆その他の行事

〔民話の会〕

(地元につながる親鸞聖人のお話)

4月2日午前9時30分より

〔尊徳太鼓〕

(二宮尊徳を顕彰する太鼓)

4月2日午前11時より

4月3日午前9時30分より

(稚児練りの間は中断します)

〔写経の会〕

4月2日と3日(随時)

寺院名